

平成29年度 第3回総合開発委員会会議録（要旨）

【開催日時・場所】

平成29年12月22日（金） 13：30～ 八雲町役場第1・2会議室

【出席者】 委員：小川勝士、鎌田和弘、坂野俊樹、刀禰清貴、平野百合子、
戸田美恵子、秋松等、阿部政邦、富田直和、長江隆一、日村伸、
大野博子、小出政彦、竹浜俊一、東間和浩
町長：岩村町長、吉田副町長、萬谷副町長、各課長
傍聴者：なし

【要旨】

- 第2期八雲町総合計画策定について説明した。
- 当面する町の主要施策・事業について説明し、質疑を受けた。
- 八雲総合病院平成29年度決算見込みについて説明し、質疑を受けた。

【内容】

1. 開会
2. 町長挨拶
3. 会長挨拶
4. 議事
 - (1) 第2期八雲町総合計画の修正について
資料1について企画振興課企画係長より説明。
・質疑なし
 - (2) 第2期八雲町総合計画新旧対照表について
資料2について企画振興課企画係長より説明。
・質疑なし
5. 報告事項
 - (1) 当面する町の主要施策・事業～平成30年度主要事業の構想について
 - ①汚水処理施設共同整備事業について
資料3について環境水道課長より説明。

・質疑

(委員)

- ・場所は三杉町にある車両センターの裏の施設のことが。

(町)

- ・そうである。下水道施設の一部にし尿を受け付ける施設を追加して一緒に処理していくこととなる。

(委員)

- ・総事業費が6億3000万円程度となっているが、その財源の内訳を教えてください。
- ・現在下水道使用料やし尿処理手数料を町民で負担しているが、この施設ができることによりその手数料に影響があるのか。

(町)

- ・財源内訳については、おおよそではあるが半分は国から補助金、残りの半分は地方債となっている。
- ・手数料については、現段階では検討に至っていないが、平成32年度に向け検討事項となっている。負担が増えるという懸念もあるが、現在の手数は平成7年から改定してなく、社会情勢等の環境も変化してきているので、一度原価計算をし、妥当な金額かどうかも含め、検討していきたいと考えている。

(委員)

- ・この共同施設について、他の地域でも運用しているかと思うが、使用料の問題について各地域の状況を調査しているのか。

(町)

- ・施設を導入した地域の状況についてまで調査はしていない。しかし、地域によって単価が違うことは認識している。

(委員)

- ・施設が老朽化していることは事実だと思うが、直接町民の生活に関わる問題なので、初歩的な調査を踏まえ、導入した方が効果的という判断をする材料として加味されなければならないと思う。

(町)

- ・今後十分に研究・検討していきたい。

(委員)

- ・必要なものは整理していくことは当然であるが、この事業に関わらず、実施するということであればそこまで踏まえた上で進んでいかないと、どこかで町民は納得しないと思う。平成32年度から供用が開始するが、これから手数料を見直すということはおかしいと思う。平成24年度くらいから動き始めないと、この事業は着手する意味はないと思う。実施するということであれば、そこまでやっていただきたい。

②八雲町学校給食センター改築事業について

資料4について学校給食センター所長より説明。

・質疑

(委員)

- ・熊石地域の給食センターを廃止して、施設を統廃合するということであるが、熊石地域の小中学校への運搬時間はどのくらいなのか。
- ・現在雲石峠の道路改良工事が途中で止まっており、道が急こう配の中運搬す

るかと思うが、事故等により給食が届かないといった事態も想定されるが、そのような場合はどのような対応を考えているか。

(町)

- ・運搬時間については、夏場は約 45 分、冬場は約 55 分を見込んでいる。
- ・事故等による対応については、事故が起こらないように細心の注意を払うが、万が一届かない場合は非常用の給食を熊石地域に用意しておくことを考えている。

(委 員)

- ・事故等がないようにしていただきたいが、非常食を用意するということが、実際にやった地域はあるのか。

(町)

- ・非常用の給食を販売していることから、少なからずそのような備えをしている地域はあるかと思う。

(委 員)

- ・敷地面積だが、現状の八雲地域と熊石地域を足しても予定の敷地面積はかなり広いが、こんなに必要なのか。また何か有効活用する予定があるのか。
- ・熊石地域に運搬するとのことだが、運搬業者は決まっているのか。
- ・今後の設計にもよるとは思うが、建物面積が大きくなればなるほど経費はかかるが、もっとコンパクトにできないのか。

(町)

- ・敷地面積については給食の運搬や食材の搬入を伴うことから、建物面積の 3 倍程度の面積が必要と言われている。そうすると約 4,000 m²の敷地面積が必要となる。残りの 2,000 m²については、隣接している消防本部のドクターヘリの発着するスペースにも活用できるかと考えている。
- ・熊石地域への運搬業者については、現在熊石地域の小中学校に運搬している業者がいるので、運搬が可能かどうかを確認しながら対応していく。
- ・建物面積については、今後の設計にもよるが最大でも記載の建物面積になるかと思うが、できるだけコンパクトにしていきたい。また衛生管理上ある程度面積がないと対応できない部分もあるので、配食数も考えるとこの建物面積が標準かと思う。

(委 員)

- ・新しい施設の調理処理能力はどのくらいなのか。
- ・熊石地域に運搬する時間が、夏場は 45 分、冬場は 55 分かかるとのことだが、今までより 1 時間早く調理しなければならないが、給食の安全性等を含め問題ないのか。

(町)

- ・調理処理能力については、1日1,600食を想定している。
- ・運搬時間と調理時間の関係だが、現在落部地域への運搬までに1台で運搬しており、途中の小中学校への運搬も含め約50分程度かかっている。それを踏まえ、熊石地域への運搬についても可能かと思う。

(委員)

- ・運搬車両については、これまで業者が購入しており、競争入札ができない仕組みになっていたが、この機会に改善されるのか。
- ・臨時調理員とは臨時職員のことか。

(町)

- ・競争入札については、車両の原価償却等の関係からもなかなか競争入札に馴染まないと考えている。
- ・臨時調理員は臨時職員ということである。

(委員)

- ・職員の関係だが、臨時職員で10数年間雇用されていることがかつてはあったが、現在の実態はどうなっているのか。
- ・運搬業者を選定するにあたり、一者に偏らざるを得ない状況であるかと思うが、車両購入を含めた形での競争入札にするなど、改善策として何かないのか。他の自治体はそういう仕組みになっているのか。

(町)

- ・ベテランの職員については、20年くらい雇用している方が2名おり、その他の方は新しい方がほとんどである。

(町)

- ・運搬業者については、慎重に考えなければならない問題である。現在熊石地域に運搬している業者にお願いせざるを得ないかと思う。また食材についても現在熊石給食センターに納入している店舗もあるので配慮しなければならない。統廃合する上で、熊石地域側にも十分配慮しながら慎重に進めていくので、ご理解いただきたい。

(委員)

- ・臨時職員で20年以上もいるとのことだが、改定したほうがよいのではないか。ベテランの職員が必要なのは理解できるが、臨時職員でいつまでも雇用しているということは問題ではないか。

(町長)

- ・委員ご指摘のとおりであるが、経費もあるので、十分に検討していきたいと思っている。

(委員)

- ・施設が完成した時の熊石地域側の職員はどうなるのか。

(町 長)

- ・今のところ熊石地域側の職員が若いと聞いているので、通勤が可能であれば八雲地域で働いていただきたい。また通勤ができない方についても、熊石地域側の町の施設に配置することを考えなければならないと考えている。先ほども説明したとおり、運搬業者や食材の搬入、職員の配置についても十分に配慮していきたいと考えている。

(委 員)

- ・統合後の職員の配置数はどのようになっているのか。

(教育長)

- ・教育長に就任して1年半ほど給食センターを見てきているが、あれだけの数の方々が意思を統一して動くということは、大変な職場だと感じている。その中で、ベテランの方々が適切な指示をされたり、また相談を受けたりと、やっぱりこの方々がいることによって助けられている場面も多くある。それも考えながら、人員の配置についても十分に考えていきたいと思う。新しい給食センターについては、業務量も多くなり、またアレルギーへの対応するための特別な部屋についても考えているので、現在の人数だけではまかないきれないと思っている。しかし具体的にどれだけの人数になるかということは、今後業務を進める中で確定していきたいと考えている。

(2) 八雲総合病院平成29年度決算見込みについて

資料5・6について総合病院庶務課長及び総合病院経営企画係長より説明。

・質疑

(委 員)

- ・平成29年度当初の「G 内部留保資金」の数字が合っていないと思う。

(町)

- ・資料に誤りがあり、平成29年度当初の「E 流動負債」の内訳の数字が違うため、正しい数字にならない。新しい数字に変えて、後日各委員へ説明をつけて郵送する。

(委 員)

- ・この場で議論する中で一番大事なことは、最終的に内部留保資金がどういう風になるのかということではないだろうか。この内部留保資金が変わりなければ、中の数字だけ間違っていることということなので、問題ないのではないだろうか。

(町)

- ・内部留保資金の数字は変わりなく、昨年よりも落ちる見込みとなっている。要因としては、平成26年度に公営企業会計の改正があり、賞与引当金という

新たな制度ができた。3年間の猶予があり、これまでにこの内部留保資金含まれていたが、今年度より含まれないこととなりその部分が減額となっている。

(会 長)

- ・内部留保資金の数字が間違っているのではなく、内訳で誤りがあるということなので、後日郵送しなくてもよいかと思う。

(各委員)

- ・必要なし。

(委 員)

- ・郵送の必要はないが、今後については指摘されるような内容の資料を出さないでほしい。

(委 員)

- ・一般的な企業会計をやっている側では、わかりづらい会計処理がある。資料の損益については、見ればわかるが、貸借ベースとなれば、全然見えない部分がある。決算のときには貸借の対照表がわかる資料も出していただければと思う。

(町)

- ・出すことができる。

(会 長)

- ・決算時のときに出していただくこととする。

(委 員)

- ・資料6の説明では、入院・外来ともに増えているという報告はあったが、平成29年度当初よりも決算見込みが低くなるのはどういうことなのか。見込みが動くことは事実でやむを得ないが、少しでも予算に近づけたほうが良いかと思う。

(町)

- ・今年度、内科医師を1名又は2名を確保する予定であったが、現状は増えていない。しかし12月に循環器の医師が新たに勤務しており、本来であれば循環器専門で診察するが、内科の診療もてつだっていただき、カバーしている状態である。本来であればこの収益に見合うような収入を確保し、費用についてもできるだけ圧縮しなければならないが、入院収益が増えた関係上、治療材料費等も増えている。また整形外科入院収益が増えているが、7月に人口関節センターが開設され、当初予定していた患者数より大幅に増えている。人工関節センターでの手術治療費が高いため、当初予算の材料費より多くなっている。このことも含め、できるだけ時間外を含む手当や治療費を圧縮できるよう、職員一同頑張りたい。

(委員)

- ・費用の部分で医師や職員が増えれば、当然給与費は上がると思うが、もっと収益になることを考えなければいけないと思う。よい治療をしても収益が増えないと意味がないと思う。医療は、病気にかかったら最新の技術をもって治すという選択肢と病気にならないために予防していくという考え方があるが、八雲町はどういう方向性なのか。最新医療をやるためには、最新機材等を導入すればよい治療ができると思うし、健康のために予防に対するような取り組みを行えば患者は減ると思う。両方できるとは思えないので、八雲町はどちらに重点を置いているのか。

(町)

- ・病院としては、予防のため現在保健福祉課で実施しているワクチン受信を来年度から総合病院で受診できるような方針を掲げている。また、健康診断や人間ドックについては、新しく建てた中央棟に内視鏡の部屋を多く設置したが、医師の数が少なく十分に機能を果たしていない。来年度以降になるが、健康診断の専門医を配置するなどいろいろな工夫をし、受け入れを増やしていく検討をしている。高度医療については、総合病院でできない治療もあり、北大や札医に搬送して手術をしていただいたり、北大や札医の先生が八雲町に出向いて手術をしていただいたりしている。また医療機器も高額なため、手術で使用頻度の少ない機器については、設置しないと考えている。患者の受け入れをすると、看護師の配置も含めて対応してなければならないが、八雲総合病院においては、7：1という看護基準を定めており、その基準を保つために看護部も含め調整を図っているところであり、少しでも収益を図るための努力をしている。

6. その他

(委員)

- ・町長に伺いたいですが、環境の変化によって災害が起きる可能性が高まっていくと想定されるが、主要魚種は自然環境に大きく関わっており、生産量が大幅に落ち込んだとき、漁師一人一人復旧できない場合がある。そういった場合、経営回復は難しい。漁業に対する経営支援対策が非常に重要であると考えている。町長が新しく2期目に入られてこれからやっていく中で、水産の大きな主要事業について、災害等が発生した場合の経営支援対策をどのように考えているかお聞きしたい。

(町長)

- ・漁業者の件についてだが、災害というものは、漁業者だけではなく、農業者や商業者または個々の住宅等に係ることだと思っている。ただ委員おっしゃるとおり、漁業者、特に噴火湾のホタテ漁業者の被害というものは、町としても影響は大変

大きいと思っており、特に八雲地域であれば稚貝から3年間かかるということもある。税金や産業等のいろいろな面において影響があると思う。この辺についても、町としても個々の漁業者だけではなく、農業者等も含め全体で考えなければならず、研究を深めていかなければならないと思っている。災害については、農業は共済がしっかりしているが、漁業の共済についても徐々に育ってきている段階であるので、こちらも八雲や落部、檜山との漁協とも研究を深めていければと考えている。

(委員)

- ・議論を深めている間にまた災害がきても困るので、ぜひとも経営支援対策の研究を水産からモデルケースとしてやっていただきたい。

(町長)

- ・水産からとはいわず、全体に関わることであるため、研究を深めながら進めていきたい。また先日農林水産大臣と会食する機会があり、来年度は八雲町にも来ていただけるような話もあるので、国や北海道等にも要請しながら町としても即急に深めていきたい。漁業者の立場もわかっているとは思っているが、細部まで把握できていない部分もあるので、委員をはじめとした漁業者の気持ちや大変さを教えていただいて、組織等を立ち上げて研究を深めていけたらと思っている。

(委員)

- ・最近町内で油の流出事故が過去何年も続いている。河川に流れた大量の油はオイルフェンスでは対応できなく、バキューム車で吸わなければならないことになる。それが八雲町には1台あるが、土日は休みになり対応できなくなっている。そうすると河川に大量の油が流出し対応できなくなってしまう。現在連絡体制は整っているが、迅速に処理する方法が検討されていないため、行政や消防等を含めて検討会を作っていただきたい。

(町長)

- ・油の問題については難しい問題だと認識している。委員おっしゃるとおり、消防やまた隣接する長万部町や森町とも連携することも必要だと考えているので、検討を重ねていきたい。

(会長)

- ・前回委員がおっしゃっていた新幹線の残土問題についてはどうなったか。

(委員)

- ・10月になったらはっきりすると言われていたが、その後の進展の話もなく、現状は家の放牧地が少しなくなった感じがする。新しくまた残土を置く場所を作っていると思うが、実際問題として、この先どうなるのか教えてほしい。

(会長)

- ・新幹線の推進協議会として、年間2回横浜にある鉄道運輸機構の本部に陳情に行

く。内容については、経済効果を出す代わりにトンネルも早く掘っていただきたいということであった。

(委員)

- ・トンネルは掘れているが、行先がないということは機構で新幹線を推進する中でどのように捉えているのかと思う。今後坂野会長が機構等に行く際は、伝えていただければと思う。

(会長)

- ・機構は、環境等には非常に神経質に取り扱っている。それは陳情の際にひしひしと感じている。

(委員)

- ・どこかに置くとなったら、誰もよいとは言わないと思う。科学が発展してきている中で対応できないのかなと思ってしまう。

(事務局)

- ・現在の委員の皆様の任期だが、平成30年1月31日までとなっている。次期任期は2月1日から2年間となっており、現在広報等で公募委員の募集をしている。学識経験者の委員の皆様については、ご相談等をさせていただきたい。また次回の会議は3月下旬と考えている。

7. 閉会